

みんなで考えよう

ハマのハコ

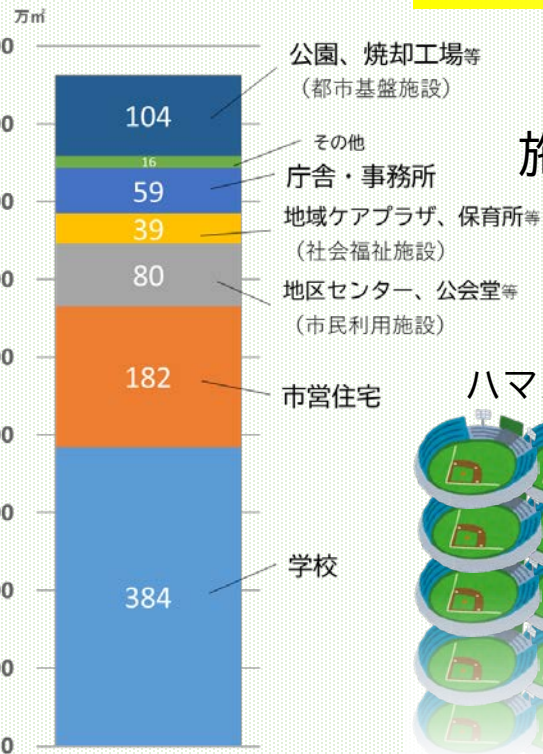
横浜の公共建築物のこれからを考えるニュースレター

一斉に老朽化を迎え、今後、保全や再整備が必要となる横浜市の公共建築物。市民のニーズの変化や財政負担への対応など、様々な視点から公共建築物の「これから」を考えていきます。

ハマ：横浜市
ハコ：公共建築物

市内の公共建築物 どのくらいあるの？

施設数は2,300を超え、総床面積は800万㎡を超えます。



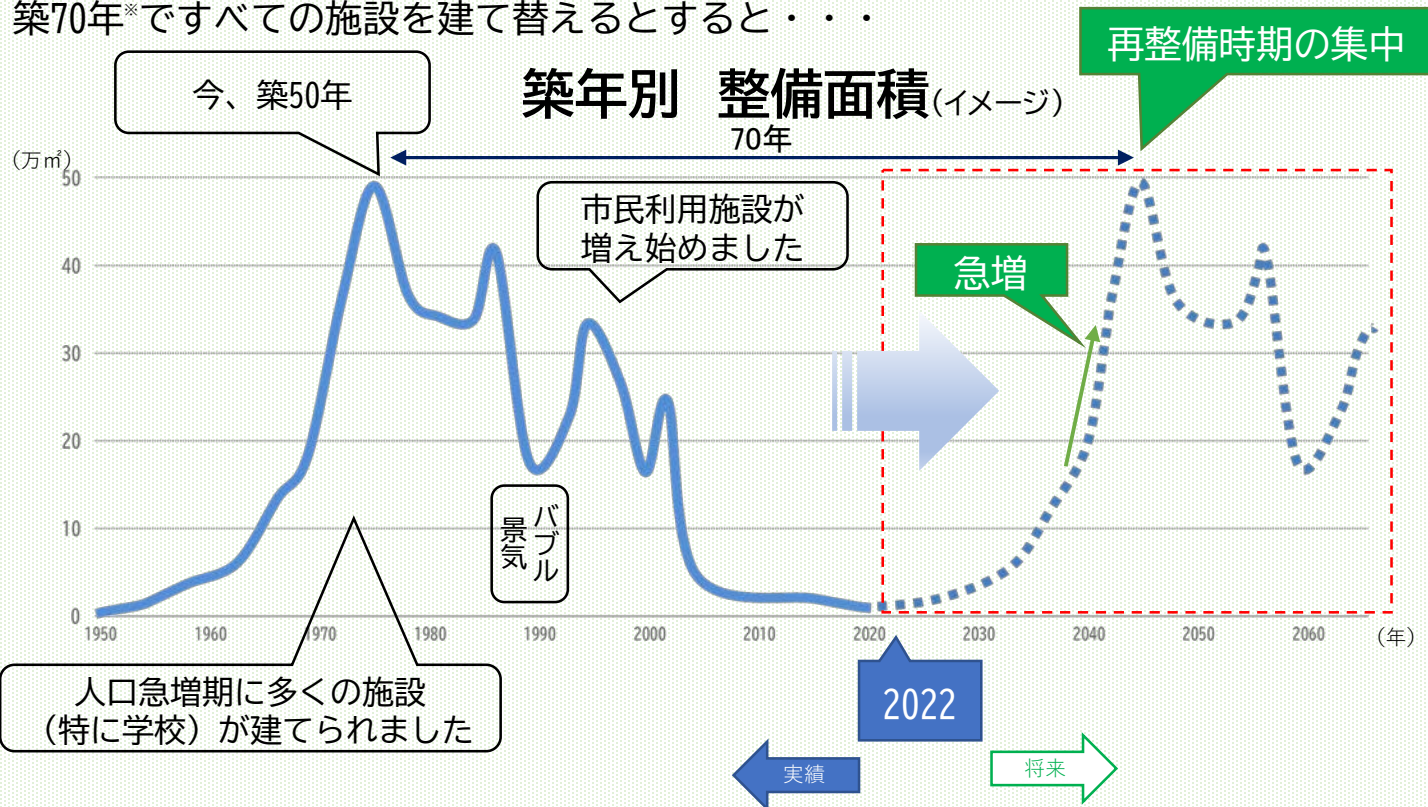
(2021年度概算値 一般会計で整備・運営する施設)

ハマスタ：横浜スタジアム球場面積35,300㎡

市内の公共建築物、いつごろできたの？

1970年代頃から2000年代頃にかけて多くの公共建築物が整備され、近い将来、一斉に老朽化が進みます。

築70年*ですべての施設を建て替えるとすると・・・



※横浜市では施設の目標耐用年数を70年以上としています

大量の再整備が必要に

横浜市公共建築物マネジメント白書 (第2版) から作成

横浜市公共建築物マネジメント白書 (第2版) https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/zaisei/kokyo/minna/manejiment_hakusho.html

人口は減っていく？

人口

2021年
376万人



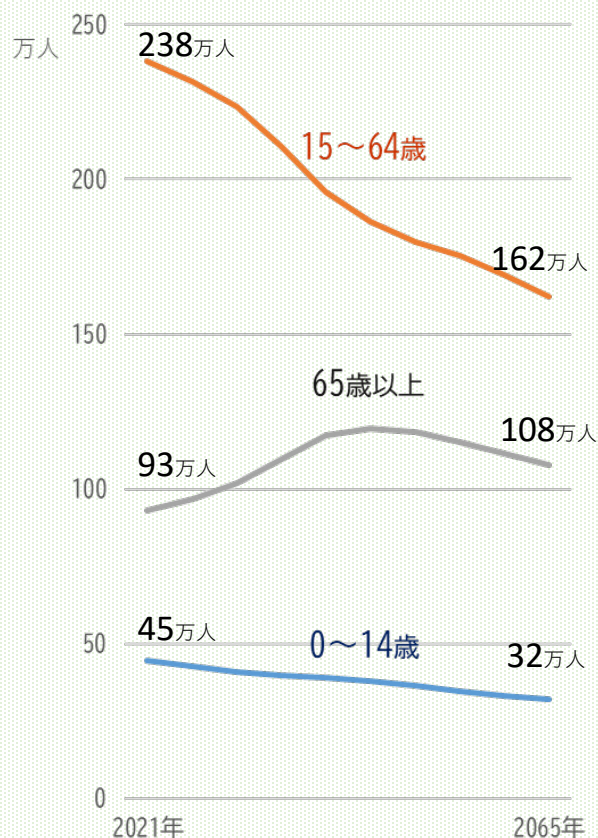
2065年
302万人

横浜市の年齢別人口（住民基本台帳による）令和3年9月末日

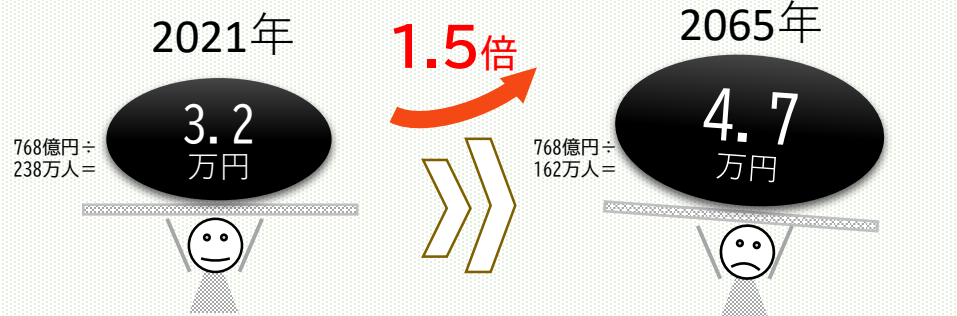
横浜市の将来人口推計中位推計

市の総人口は今後45年間で2割減。このうち生産年齢人口（15～64歳）は3割減。

人口減少に伴い、公共施設の維持にかかる市民一人当たりのコストが増大していきます。



一人当たり(15～64歳)の維持コストの比較



◆2021年・2065年の公共施設全体の年間維持コストが、いずれも768億円と仮定して計算。
768億円:2020年度の一般会計決算における公共施設全体(インフラ・公共建築物)の年間維持コスト。

将来の維持コストが増えないとしても
生産年齢人口が減るため、

一人当たりの額は、1.5倍に

さらに、老朽化した施設の建替え費用が必要です

財政の長期的な見通しは？

- ・歳入：生産年齢の人口減少に伴い市税収入も減少
 - ・歳出：高齢化等に伴い社会保障経費が増大
- 慢性的な収支不足と予測

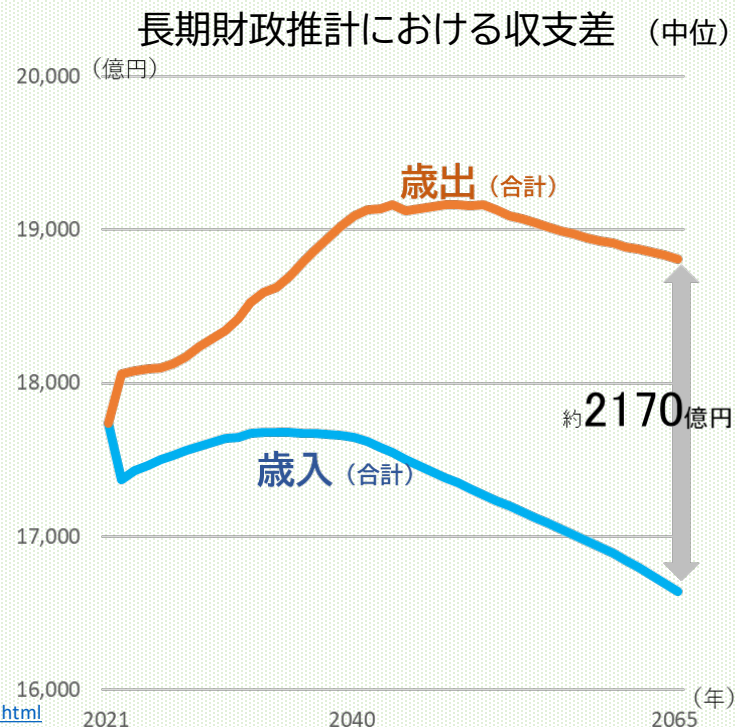
歳出（支出）と歳入（収入）の見込みの差は年々拡大し、2065年度では

約**2,170億円**※ **不足**することが推計されています。

※中位推計に基づく2065年の収支差
1兆6,640億円（歳入）－1兆8,810億円（歳出）＝▲2,170億円（不足額）
なお、市民1人あたりに換算すると、不足額は7.2万円になります。
▲2,170億円÷302万人（2065年の市の推計人口（中位））＝▲7.2万円

横浜市の長期財政推計 から作成

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/zaisei/jokyo/zaiseijokyo/tyoukisuikei.html>



歳入の見通しに合わせて、歳出の規模をコントロールしていく必要があります。

使えるお金は減っていきます

ハマのハコのみらいは？

これまでの横浜市の取組

施設を長く大切に使うため、保全に力を入れるとともに、建替え等の際には、複数の施設の複合化などの再編により効率的な整備に取り組んできました。

2,300施設、総床面積は
800万㎡を超える公共建築物

近い将来、一斉に老朽化し
大量の再整備が見込まれる

人口減少に伴い、施設の維
持にかかる市民一人当たり
のコストが増大

財政の見通しは慢性的な
収支不足。歳出規模の
コントロールが必要

従来の水準・手法のまま施設を
維持していくことは難しくなっていく・・・

次号につづく

5



公共建築物を長く使っていくためには、保全や再整備が必要ですが、市民ニーズの変化や財政負担への対応など、様々な視点から再整備等を検討していきます。